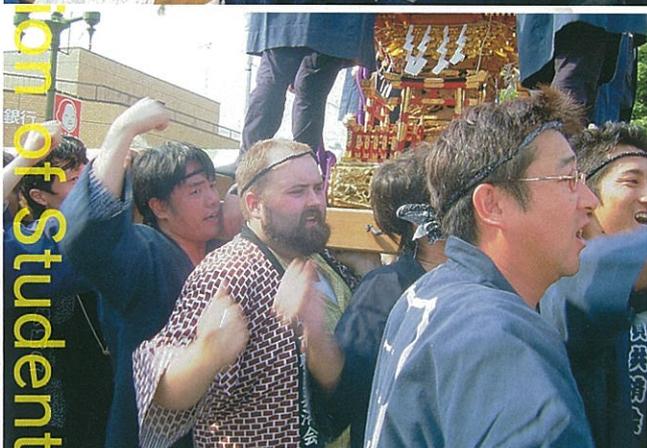
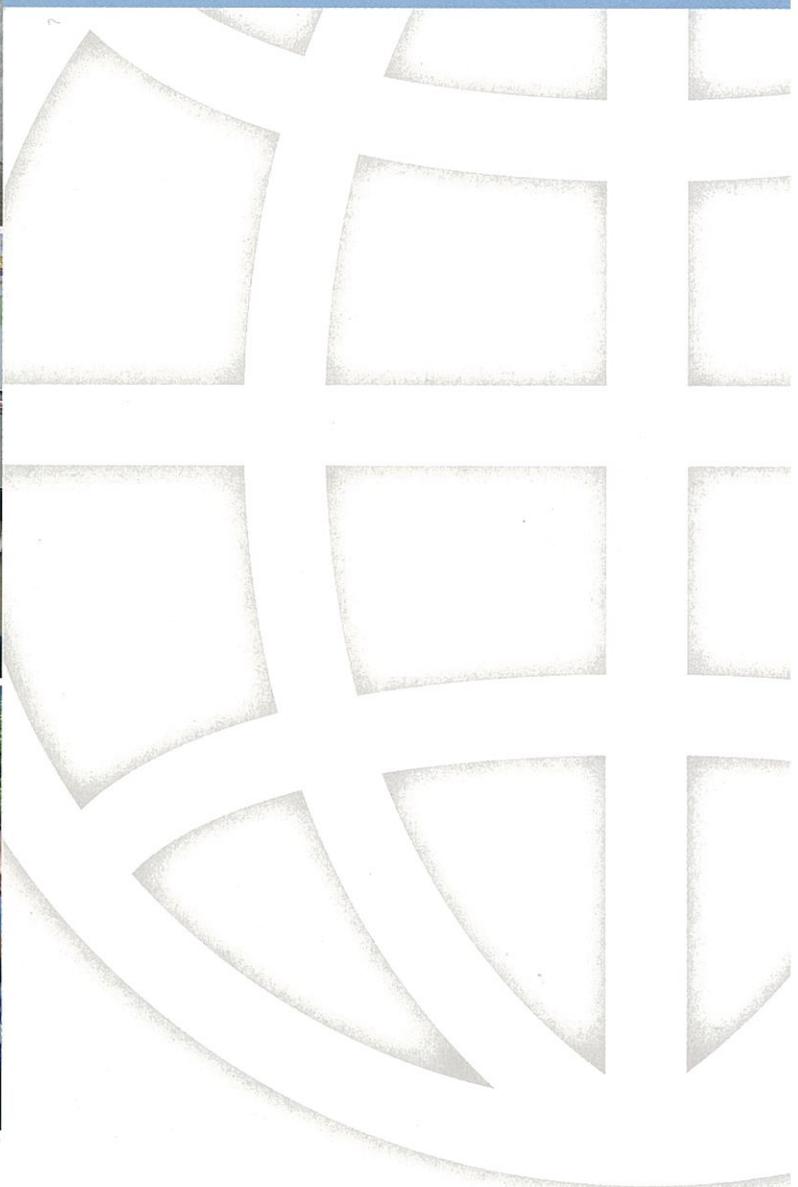


Gunma Regional Conference for Promotion of Students Exchange



AKAGI

ぐんまの留学生
第17号



群馬県留学生交流推進協議会

AKAGI

ぐんまの留学生

目次

1	巻頭言		
	巻頭言	独立行政法人日本学生支援機構関東甲信越支部長 伊藤進康	1
2	寄稿		
	フィンランドから日本へ心を運ぶ		
	上武大学経営情報学部3年	ヨニ オクサ (フィンランド)	2
	自分の故郷に桜を植えたい		
	高崎経済大学地域政策学部3年	蔣 雄 軍 (中 国)	3
	質問の秘訣		
	群馬大学教育学部日本語・日本文化研修留学生		
	ヴイドジンスキ マレック アンジェイ (ポーランド)		5
	言葉の大切さを感じて		
	群馬大学大学院工学研究科博士後期課程3年	苗 志 輝 (中 国)	7
	孤軍奮闘!?		
	群馬大学社会情報学部2年	武 藤 一 也	8
	上海日系企業で研修に取り組む		
	上武大学経営情報学部2年	今 井 梨 奈	9
3	県内高等教育機関の近況		10
4	交流事業・支援事業		13
5	資料		
	「群馬県内留学生関係資料」		15
	「全国留学生関係資料」		18
	「群馬県留学生交流推進協議会関係資料」		21

巻頭言



独立行政法人日本学生支援機構
関東甲信越支部長

伊藤進康

日本学生支援機構が発足し、早いもので3年がたちました。この間、奨学金貸与事業、学生支援事業と並び、留学生支援事業を事業活動の大きな柱の一つとして位置付け、国際理解・交流の推進を図って参りました。

留学生支援事業の具体的な活動は、留学生に対する学資の支給と援助、留学生に対する宿舍の整備、日本留学試験、帰国留学生に対するフォローアップ事業、留学に関する情報の提供、我が国の高等教育機関への進学を希望する留学生のための日本語教育、そして留学生交流推進事業となっています。

このような事業を行うため、本部のほか全国に12の支部・事務所を設けていますが、関東甲信越支部もそれらの支部の一つであります。

これらの支部には留学生の寄宿舍である国際交流会館が設置されていますが、当支部にも東京国際交流会館（老朽化により平成19年3月閉館）、駒場国際交流会館、祖師谷国際交流会館の三つの会館があります。そこでは、秋にそれぞれ会館祭を開催したり、各種の催し物を行ったりしており、地域のみなさまとの交流を深めています。

また、これらの国際交流会館での催し以外にも、いろいろな大学の留学生を募集し自動車工場などの見学をしたり、我が国の伝統文化に触れる体験をしたりする企業見学会なども行っており、参加者から好評を博しています。

国際交流、特に地域における留学生交流がこれからの大きな課題となっていることを踏まえ、関東甲信越を担当区域とする当支部では、群馬県のみなさまと協力しながら、各種の留学生交流事業の一端を担っていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



フィンランドから日本へ心運ぶ

上武大学経営情報学部3年

ヨニ オクサ (フィンランド)

私はフィンランド中西部のセイナヨキ大学から交換留学生として上武大学経営情報学部に来ました。フィンランドは人口が540万人と少なく日本のにぎやかな生活をとて楽しむことができ、いろいろな人達に会いました。初めて成田空港から東京へと来たときには普通の人がとても親切にしてくれ警察の人も私の荷物を手伝ってくれました。ヨーロッパの警察ではないことです。初めの頃は周りの人が私を避けるようにして特にお年寄りがそうでしたが、多分私のような大きな西洋人に会ったことがないからでしょう。私が住んでいる高崎市新町の大家さんはとても親身に世話をしてくれ地域の人達も私に慣れてからは、とても良くしてくれました。

上武大学では日本の学生から、いつまでいるのかと何回も聞かれ不思議に思いました。授業では日本語にとて苦労しましたが、情報コースの専攻なのでよく勉強できました。先生方は留学生と気軽に話しに応じてくれ英語でも説明してくれました。日本人学生との交流は十分とは言えませんでした。フィンランドも外国人が少ないので知らない相手は避ける傾向があり日本と似ています。これからは日本も国際交流が進み留学生と日本人学生が互いに交流し易い環境ができると思います。

私は日本のデザインに共通する暖かさがとても好きです。食事に使う簡単なものでも、とても良いデザインがされています。フィンランドも建築や家具や家庭用品のデザインに優れています。日本のクリスマスはとても美しい光のデコレーションがありましたが本当のクリスマス様には感じられませんでした。フィンランドやヨーロッパではクリスマスはキリスト教の祈りと1年の最大のお祭りです。日本ではお正月が一番の行事なので違うのでしょうか。私はお正月に神社に行きみんなと一緒に祈りをしてその一体感をとても楽しみました。夏のお祭りにもいろいろ参加しましたが日本の花火は今まで見たことがない美しさでした。旅行をするのに日本の鉄道はとても良くできています。係りの人は外国人にも親切に教えてくれますし案内所もすぐ分かります。フィンランドやヨーロッパの鉄道は窓口で切符を買うのに比べ日本の自動システムはとても便利です。留学生には運賃が少し高いですがどこにでも行けるのは便利です。人は自分が知らない他の国について固定観念をもちやすいものです。留学で実際にその国に行って人々と交わることでもっと広い見方をすることができます。私の経験は初めての日本と日本人について身近に理解を深めることができとても有益でした。日本留学という以前からの私の夢を実現して大学で勉強する機会を与えてくれた上武大学に心から感謝します。これからもフィンランドのセイナヨキ大学から交換留学生が続いて高崎に来ることでしょう。そして日本とフィンランドとの相互理解をムーミンやサンタクロースよりもっと深めるでしょう。



自分の故郷に桜を植えたい

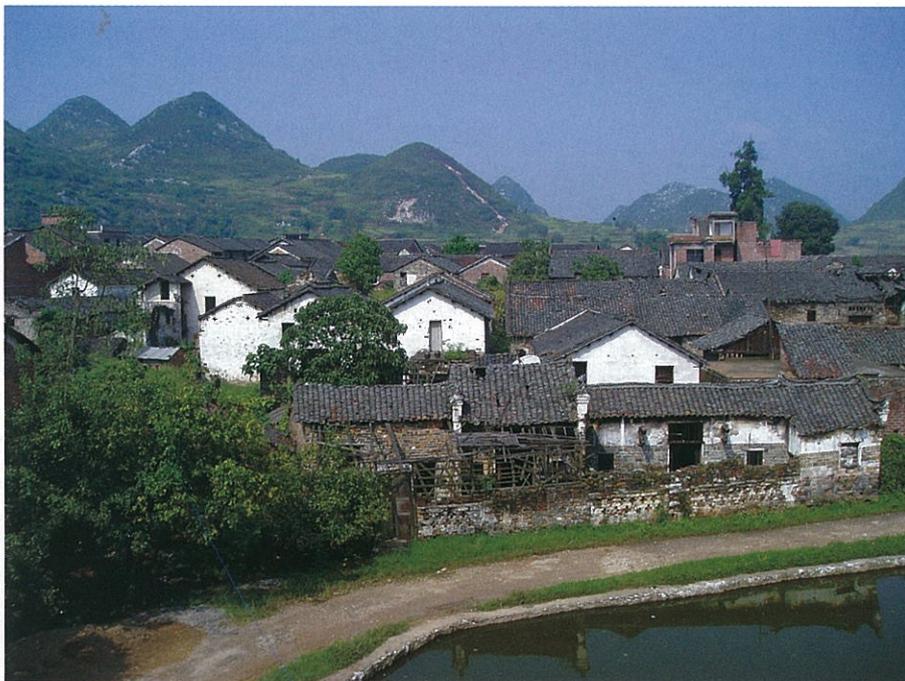
高崎経済大学地域政策学部3年

蔣 雄軍 (中国)

日本に来て早くも4年が経った。日本で生活し学業に励みながらも、母国である中国のことを少しも忘れることはなかった。黄河流域から中国の南に移してから600年あまりの故郷・中国湖南省藍山県蔣家村、私はこの村で初めて海外に留学した「人物」である。たまたま留学先は日本！この縁をどうか生かしたいと頭の中で常に考えている。

昨年、日本では海で大変な環境問題が発生したことがテレビで報じられた。越前くらの被害だ。実はそれを大量発生させ、大きくしたのは意外に人間だった。その大きな原因としては、都市の排水を運んだ長江の水と考えられている。この報道を見て、自分の故郷は、ちょうど長江の支流である湘江の上流地域にあり、ひょっとしたらこの越前くらの問題と関係があるかも知れないと思った。

自然と共に生きていくという考えは日本人にも中国人にも通じる。故郷の人々は風水に基づき、村づくりをしている。そのため、村の周りには神様が住むと考え、太古の森は何千年にも渡って村人に守られてきた。自然豊かなこの村は、肥沃な大地に恵まれ、人々は豊かな生活を送っていた。ところが1960年代に入ると国が造鉄の運動を起こし、生産に間に合わない石炭の採掘を補うため、森林を伐採し、炭を作る政策をとったのである。そのため、先祖代々守られ



てきた太古の森が余儀なく伐採され、目の前からその姿が消えていった。その後、人口の増加に伴い、森がなくなった土地が開墾され、二度と木が生えることはなかった。木から守られなくなった土が雨にさらされ、次々と川に流されていく。大地が痩せ始め、洪水は年々大きさを増す。そ

の肥沃の土を含んだ長江の水は大都市からの排水と混ざり合い、東シナ海で大量のプランクトンを発生させ、越前くらげを大きくした。故郷と日本、地図では遠そうに見えるが意外なところでつながっていた。

故郷の土壌流失問題を解決するには木を植えるのが一番良い方法と考えられる。そこに

成長が早い、樹幹が大きい染井吉野を植えたらどうかと考えた。桜も木であって、十分土を守ることもできるし、中国人にとって桜は外国のものであり、立派な花を咲かせる姿を見に来れば、現地住民の現金収入になるのではないかと考えた。現金収入があれば恐らく木を伐採しないだろう！そこで桜をきっかけに森を取り戻せると私は考えたのだ。

日本と中国は国土が接していないが近い隣人である。良き隣人になるには、まずお互いの文化や習慣の違いを認識し、理解を深める必要がある。その前提として、お互いに興味を持つことがもっとも大切だと思う。日本人は自分のことを他人に紹介するのは、どうも苦手そう。そこで故郷に桜を植え、桜を通して平和を大切にしている日本のことを皆に知ってもらえるのではないかと私は思うのだ。そして、日本人が中国に桜を植えに行き、現地の人々と触れ合い、生の日本人を紹介することもでき、現在の中国のことも知ることができる。お互いに興味を持ち、さらに相互理解を深め、良き隣人になれるのではないかと思う。

このように私は故郷の環境を少しでもよくしたい、そして、折角の留学先の日本のものを持ち帰り、日中友好を少しでも深めていきたいと思い、日本の代表である桜を、ぜひ故郷に3万本、植えたいと考えているのである。



中国湖南省藍山県蔣家村の現在の様子。村を囲む山々にはかつて森があったが、現在は木が伐採され、土壌流失が進んでいる。



質問の秘訣

群馬大学教育学部日本語・日本文化研修留学生

ヴィドジンスキ マレック アンジェイ (ポーランド)

日本に来てはや四ヶ月。本当あつという間で、もうそろそろポーランドに帰る時期が近づいているような気がする。留学する前は、一つの目的として、今まで外国人と話したことがない、日本人と出会いたいと思っていた。日本人の友達と遊びに行ったり、一緒に時間を過ごしたりすれば、「おかしい日本語」、「外人っぽい日本語」を直してもらえると考えたからだ。日本にいる間、様々な人に出会ったが、される質問は変わらないものなので、今日は、そのうちの三つの質問について話したい。一つ目は、「日本語は難しいですか。」、二つ目は、「本音と建前ってわかりますか。」、三つ目は「彼女がいますか。」である。これらの質問が良いか悪いか、つまらないかどうかについて判断せず、ただ日本人とヨーロッパ人の受け止め方が、どう違うか考えてみたい。

まず、「日本語は難しいですか。」についてだが、質問した人は返事を待たないで、必ず「やっぱり難しいですね。特に漢字でしょう。」と一言を付ける。ヨーロッパ人の立場からいうと、一番難しい問題は勉強した日本語を話してみる機会がまったくないこともあって、日本語の上達を妨げているように思う。話せるようになるために留学という方法をとる人も多い。正直言えば、語学とは自分が考え出すことではなく、既存の資料を使って勉強することだから、言語学習そのものは、決して難しいとは言えない。したがって、「日本語は難しいですか。」という質問に対して答えは「普通ですよ。たいしたことではないと思います。」だ。また、漢字の難しさは二の次だろう。漢字はただ覚えるものであって、練習すれば誰でも書いたり、読んだりできると思わないだろうか。そういう質問をする日本人は、そのように想像しないだろうか。日本の母語を考えてみると、ほかの国には見当たらない特徴として「日本語」と「国語」という区別がある。そこで、日本人には逆に「国語は難しいですか。」と聞いてみたい時もある。日本人は国語を、外国人は日本語を勉強するのだと、あるポーランド人の教授から半分冗談として聞いたことがある。「国語と日本語」、「外と内」、「日本人と外国人」という対立に極めて強く結び付けられているようで、とても興味深い。

次に、「本音と建前」について少し考えてみたい。この質問を受けて私は、この人たちは「本音と建前」を日本だけの概念と思っているのかと思い、非常に驚いた。論点をずらさないためにも、「本音と建前」の定義が必要だと思う。たとえば、先生に行くように言われた学会に、本当は行きたくなくてその場を取り繕う「ちょっと用事があるので、」などのような言い訳は本当に「本音」と「建前」にふさわしいだろうか。言うまでもなく、世界いずこにも同じような概念があると思う。ヨーロッパ人の立場から言うと、多分一番典型的な例はシェイクスピア劇の有名な主人公で、ハムレットだ。ハムレットでさえ、考えていること「本音」と、立場上



かく振舞わなければならぬ「建前」という二つの行動パターンの板挟みに悩む。日本人の中に日本の特徴性を過度に意識する傾向が見られるように思うのは私のような外国人だけだろう。

最後に、「彼女」の質問だが、ヨーロッパ人は初めて出会ったばかりの人に年齢や彼女彼

氏の有無などをあまり聞かないので、この質問を初めて受けたときは本当に驚いた。大体は、名前は何、出身はどこ、私の場合は彼女がいるという順番だ。その場の会話に全く関係ないことだし、直接に聞かれたら、「ああ、狙ってるんじゃない。」と最初に頭に浮かぶ。しかし、日本にいる間なぜそのような質問をされるか、なんとなくわかってきたと思う。日本人は初めて出会った人からある程度情報を得ないと、どうやって接していいかわからなくて、困るのだろうということだ。つまり、名刺交換が必要だ。先輩か後輩か、上司か部下か、独身か既婚かなどわかると自分の位置、社会的な役割を果せると思う。したがって、彼女がいるかどうかは、日本人にとって自分と話者との距離を測るために不可欠な情報なのに、いまだにこの手の質問には慣れていない。

外国に行くと必ず自分の国に無いことに出会う。日本人との交流を深める機会は、まだまだあるので、多くの出会いを通じて私の考え方もさらに変わってゆくかもしれない。それでは、残された半年間を楽しみにしている。



言葉の大切さを感じて

群馬大学大学院工学研究科博士後期課程3年

苗 志輝 (中国)

私は日本に留学に来てから、今年で11年となりました。日本語学校を始め、今の博士課程までにアルバイトの経験や大学での研究生生活は「日本語」を無くして語ることはできません。留学生にとって専門知識や技術を勉強するのはもちろんですが、留学先の国の言葉を覚えることも、とても大切だと、しみじみ感じています。

私が日本語学校に通っていた頃は、アルバイトで自分の生活を支えなければなりませんでした。日本語がわからないため、中々仕事が見つからず、やっとの思いで住んでいた町のコンビニエンスストアで日本人より百円安い時給で雇ってもらいました。「日本語がまだしゃべれないから、しゃべらなくてもいい仕事をしよう。」というような甘い考えは通用せず、一通りの仕事をやってから、まもなくレジが任せられました。しゃべらないどころか、大きな声を出してしゃべらなければなりませんでした。値段すら読めない私にとって、これは大きな試練となりました。何人のお客さんに怒られたかはもう覚えていません。ただ覚えているのは、日本に来てから初めて眠れない夜を迎えたことです。「日本語がわからないとやっていけない!」という危機感を強く感じたからです。その後、毎晩家に帰ってから数字の読み方を練習し、毎朝5時に起きて日本語の教科書を暗唱しました。そんな日々が続いているうちに日本語は上達し、仕事もこなせるようになりました。

群馬大学に入学してから専門知識に関わる技術用語に接する機会が増えました。授業を理解するため、日本人学生が一回読めばわかるところを私は教科書を繰り返し読み、専門的な言葉を必死に覚えました。そのお陰で言葉の障害を乗り越え、積極的に先生とディスカッションし、先輩や友人からもアドバイスを頂けたお陰で研究活動をスムーズに進めてこれたと思います。

外国語はどんなに勉強しても母国語のように完璧に話すことはできません。しかし、完璧に話すよりもその国にいるのなら、その国の言葉を覚えよう、その国の言葉で話そうと思う気持ちが大切です。言葉はコミュニケーションの手段ではありますが、心の窓口でもあるのです。言葉で異文化に溶け込み、理解を深めましょう。日本に留学に来たなら、日本語を話せるようにしましょう。そうすれば、日本の魅力を感じることができ、自分の国との真の掛け橋になれると思います。



孤軍奮闘!?

群馬大学社会情報学部2年

武藤 一也

皆さん「留学」と聞いてまずイメージすることはどのようなことでしょうか? 「英語がうまく喋れるようになる。」「世界中に友達がたくさん出来る。」「人間が大きくなる。」などなど…。確かにこれらは留学の結果として得られるであろうことです。ですが皆さん、甘いです。これらを実現するためにはどれだけの努力を要し、苦痛に耐えなければならないか。それは留学を経験してみないと分からないかもしれません。

私は、オーストラリアシドニーのマッコリー大学に交換留学生として10か月ほど滞在していたのですが、その間は一筋縄でいかないことばかりでした。中でも特にしんどいのは最初の半年です。まず、「何でも一人でしなければならない。」これが非常に苦しいのです。私の留学は何にも知らない異国の地で自分の住む家探しからスタートしたのです。頼れる人も無く、たどたどしい英語で自分の住む家を探す。それは最初の大きなハードルでした。

次なるハードルは親しい友達を作ることです。これは常に悩みの種でした。というのも、そもそも英語力が足りず自分と友達との距離がいつこうに縮まらない。ですから英語を話すネイティブには全く相手にされない。オーストラリアは移民の国というだけあって、できるのは癖のある英語を話す中国人の友達ばかり。もちろん彼らからしか学べないことってたくさんあったのですが、当時私は「英語を勉強するという第一の目標があるのにどうして中国人と話さなくちゃならないんだ?」というジレンマに悩まされました。それだけではなく、アジア人に対するちょっとした人種差別、英語が出来ない人から金を巻き上げようとする人達との家賃交渉、風邪を引いても医者に行っても英語で説明するのが恐くてただ寝てるだけ…という現実に向き合わなくてはならず、気がつけば最初の3か月で体重が7キロも落ちてしまいました。今振り返ると、些細なことのようなのですが、当時は夜ベッドで一人泣き伏すようなこともしばしばでした。日本に帰りたと思ったこともありました。でも、そういった悩みの一つ一つを自分の力だけで解決していかなければならなかったのです。まさに孤軍奮闘でした。

ですが、その奮闘は必ず報われます! 自分が戦った分だけ自分の力になります。友達作りに関しても、事実私自身どんなにつたない英語でも精一杯自分をさらけ出して会話してきた結果、中国、韓国はもちろん、ドイツ、スウェーデン、フランス、ペルー…など世界各国に友達と呼べる人を作ることが出来ました。自分の力で一から信頼関係を築き上げてきた友達と心から一緒に笑いあえること、それが留学における一番大きな収穫なのではないでしょうか。



上海日系企業で研修に取り組む

上武大学経営情報学部2年

今井 真梨奈

私は入学オリエンテーションで海外研修の話聞いて漠然と中国にも行ってみたいと考えていたので、上海インターンシップに女子学生の募集が行われることを知り喜んで申し込みをしました。私は一度も海外に出たことが無く不安もあり両親も最初は反対しましたが私の決心が固いことをみて後は出発までいろいろと面倒をみてくれました。上海空港に着いて迎えの車で広い高速道路を通り高層ビルを抜けて市内の会社に着きました。上海の天気はどんよりとして青空がなく湿度も高めでした。車の運転はどの車も激しく競争するように走り市内に入れば大渋滞でした。市内は高層ビルが多く古いアパートや最先端の洒落たビルなどが混在しています。研修先の会社は上海国際貿易中心ビルの中の日系企業アパレルセンターにあり会社の人達は優しく受け入れてくれ一安心しました。会社はアパレル専業で市内の本社事務所と型紙作図センターと郊外の縫製工場をもち中国での経験が長い企業でした。社長の特別講義では、探究心旺盛で迅速に行動し、ハイリスクハイリターンと本音で考えるビジネスを展開されてきたことに、ただただ感銘しました。私は先を読んで調査も手を抜かない社長の行動から、自分も周りをもっと見る目を養うように改めようと思いました。

事務所の中国人社員はみな日本の大学卒業できれいな日本語を話しますが型紙CADセンターの人達とは筆談や辞書をめぐりながら何とか話をしました。中国の人達が日本人の一般的な考え方と大きく違うことに、とても驚きました。自分の主張を強くはっきりする人が多く私からみると良いと思えたり、悪いと思えたりでしたが、その姿は想像外のことでした。そして相手の見かけで判断せず直接にコミュニケーションを試みるのが、どんなに大事か改めて気づかされました。

上海の朝は自転車の波で広い車道の両側に自転車専用レーンとさらに歩道があります。地下鉄は便利で駅をいくつか過ぎただけで街の様子ががらりと変わります。新しい店も多く百貨店は日本とほとんど変わらない感じでした。ただ、洋服の色やデザインは中国風に少し地味で着飾った人も少なくお化粧品もほとんどしていないようでした。事務所の中国人女性に聞くと化粧品はお肌に悪いし、お金も余分にかかるから仕事以外は素颜だそうです。でも百貨店の店員さん達は濃い化粧品で男性店員までが化粧品をしていました。また高級品や若者向けのブランド品は高価で種類も多くあり日本のファッション雑誌も中国語で売られていました。本当に上海は様々で、ひとつの見方ができません。自分の視野を広げるには、しっかりと事前に学習しておくことが大切だと痛感しました。私は、これまでずっと群馬で過ごしてきて初めて海外に飛び出しました。この経験をきっかけに他の国々にも行ってその事情や人々の様子を知り日本との違いをもっとよく理解したいと思います。このような貴重な海外研修の機会を与えて頂いた上武大学に心から感謝します。



県内高等教育機関の近況

◆関東学園大学

本学の外国人留学生は平成19年2月現在、学部生55名、大学院生4名、科目等履修生4名の計63名が在籍し、日々勉学に励んでいます。平成18年度は4月の留学生歓迎会から始まり、多くの交流行事が行われました。また、留学生の国内就職希望に対して、大学として関連カリキュラムの見直しや就職支援の充実を図りました。本学はアットホームな雰囲気の中で留学生が主体参加型の交流を行っております。

◆共愛学園前橋国際大学

2007年2月現在、本学国際社会学部には59名の中国、韓国、タイ、トルコ、バングラデシュからの留学生が在籍しています。

2006年度は、本学において群馬県留学生交流推進協議会との協力で10月に「外国人留学生との交流会スピーチコンテスト」を開催しました。参加者は流暢な日本語で母国の文化・習慣や環境保護の問題などについて、写真や民族衣装など用いてスピーチを行い、お互いの理解を深める良い機会が与えられました。その他、例年どおり大学祭では留学生レストランを出店し、江戸東京博物館・浅草方面へのバス旅行も実施し、小学校での総合学習授業ボランティアにも参加するなど、学内外の学生や地域社会との交流活動も行いました。

◆群馬大学

本学では、平成19年2月現在、26か国1地域から246名の留学生が在籍しています。

県内の小学校で出身国の紹介等を行う「国際理解講座」、日本語スピーチコンテスト、フードフェスティバル等県内の国際交流行事に多くの留学生が積極的に参加し、地域の人々との交流を深めています。

また、スタジオオブジャパンの授業では、茶道、華道、書道を体験し、日本文化への理解を深めました。国際交流協定締結大学は、18年度35大学に拡大し、今後も学生・研究者交流を推進していきます。

◆群馬県立女子大学

本学には、平成19年2月現在、中国、韓国、台湾、カナダからの計10名の留学生が在籍しています。また、年数回、国際交流倶楽部員と共に県内各地へ視察研修に行き、交流を深めたり、群馬県に関する知識を深めています。

今年度は、新たにアメリカ合衆国、カナダ、韓国の3大学と友好交流協定を締結しました。来年度も友好交流協定校が増える予定であり、今後も国際交流に積極的に取り組んでいきます。

◆群馬工業高等専門学校

平成19年2月現在、4学科の3～5年次に9名（イラン、スリランカ、モンゴル、マレーシア）の留学生が在籍しており、19年4月には新たに4名の留学生（スリランカ、ラオス、マレーシア）の入学を予定しています。この1年の取組みとして、県内の国際交流行事等に積極的に参加するとともに、本校の寮祭等に自国紹介としての留学生コーナーを開設し、地域との交流に関わりました。また、ホームステイにも積極的に参加し、日本の文化を理解することに努めました。さらに勉学にも熱心に励んでおり、5年次生4名は大学3年次への編入学試験に合格し、後輩への良き模範となりました。

◆群馬松嶺福祉短期大学

本学は、友好関係にある中国・上海職工医学院附衛生学校より、毎年3名前後の留学生を受け入れています。今年度は希望者がなく、現在2年生に2名が在籍しています。学内の行事に積極的に参加し、大学祭では本場の餃子や饅頭を販売するなど、友好を深めています。また、卒業後は4年生大学へ編入を希望しているため、個別に日本語の指導も行っており、1年次に日本語検定の1級を全員が取得しています。

◆上武大学

上武大学は、ビジネス情報学部、経営情報学部、看護学部の3学部において交流プログラムを運営し、国際交流委員会が支援を行っています。姉妹校であるフィンランドのセイナヨキ大学からは男子交換学生が情報コースで学修し、教員の研究交流も行われています。海外英語研修は夏期の5週間に米国カリフォルニア大学で例年実施されています。海外実務研修は、夏期に中国の日系企業において、本年度は女子学生が参加して実施されています。国費私費の留学生は、秋の大学祭（あらくさ祭）を始め、群馬県や伊勢崎市や高崎市などの行事に積極的に参加しています。地域の行事としては、日本語スピーチ大会、各国料理紹介、地域市民との集い、交流会議、名所旧跡訪問などがあり交流の範囲が広がっています。

◆高崎経済大学

本学には2月現在、学部・大学院あわせて204名の留学生と、ドイツから3名の交換留学生在籍しています。国籍は中国が9割を占め、以下韓国、台湾、マレーシアとなっています。平成19年度は本協議会主催の留学生交流会の当番校として、秋の大学祭（三扇祭）期間中の11月4日（日）に、スピーチだけではなく、カラオケなどのコンテストも行う予定です。皆さんの参加を心よりお待ちしております。

◆創造学園大学

創造学園大学では、創造芸術学部30名（音楽学科9名、芸術学科21名）ソーシャルワーク学部15名の計45名の留学生在籍しています。国籍は、中国39名、ガーナ2名、スリランカ、マレーシア、韓国、台湾が各1名です。平成16年度に開学された本学は、今年度が完成年次となることから、平成20年に卒業を迎える留学生の進路相談もスタートしています。

◆高崎商科大学

本学の留学生の在籍数は、大学10名、短期大学部1名です。今年度は、初めて大学から留学生の卒業生を送り出します。また、来年度は大学院への入学者も予定されています。少人数のため、留学生同士だけでなく、日本人学生とも良くコミュニケーションが取れているようです。

◆東京福祉大学

本学社会福祉学部には、中国・韓国からの留学生在籍が各1名ずつ計2名在籍しており、社会福祉の専門家になるため一生懸命勉強に励んでいます。両学生とも勉強熱心であるため、大学の成績も優秀で、また日本語力も非常に優れています。

2004年4月より、留学生日本語別科を開設いたしました。主に、東京池袋にある学習センターでの講義を受講しております。日本語能力を本格的に身に付け、日本の大学に進学を希望している留学生のために、教育の機会を広げています。

◆東洋大学（板倉キャンパス）

板倉キャンパスには210名（学部生178名、大学院32名）の様々な国や地域の留学生在籍しています。一方、タイへの海外国際地域学研修、語学セミナー等のプログラムを組み、受入・派遣双方の充実を図っています。また、英会話・中国語などの課外語学講座を近隣住民にも開放しています。地元の小中学校との交流会が年々増加し、今後もより地域に根ざした交流を目指すつもりです。

◆新島学園短期大学

本学では、2007年2月現在、中国から8名、タイから1名計9名の留学生在籍しています。留学生のほぼ全員が、卒業後に日本（主に群馬県内）の4年制大学に進学します。

本学では、留学生の日本語能力を向上させるための科目や、日本文化の理解を深めるための科目等を設けて留学生をサポートしています。

◆前橋工科大学

本学の留学生は中国9名（学部生5名、院生3名）、韓国1名（学部生）、ベトナム2名（学部生）の計12名です。

少人数のため特に交流行事は設けていませんが、留学生同士の交流は自主的に行われています。国際交流については、地域研究開発センターが窓口となって、北京工業大学と協力と交流に関する協定を締結しておりますが、10月から12月まで、それぞれ1ヶ月間にわたり、本学学生2名と北京工業大学学生2名との交換留学が行われました。

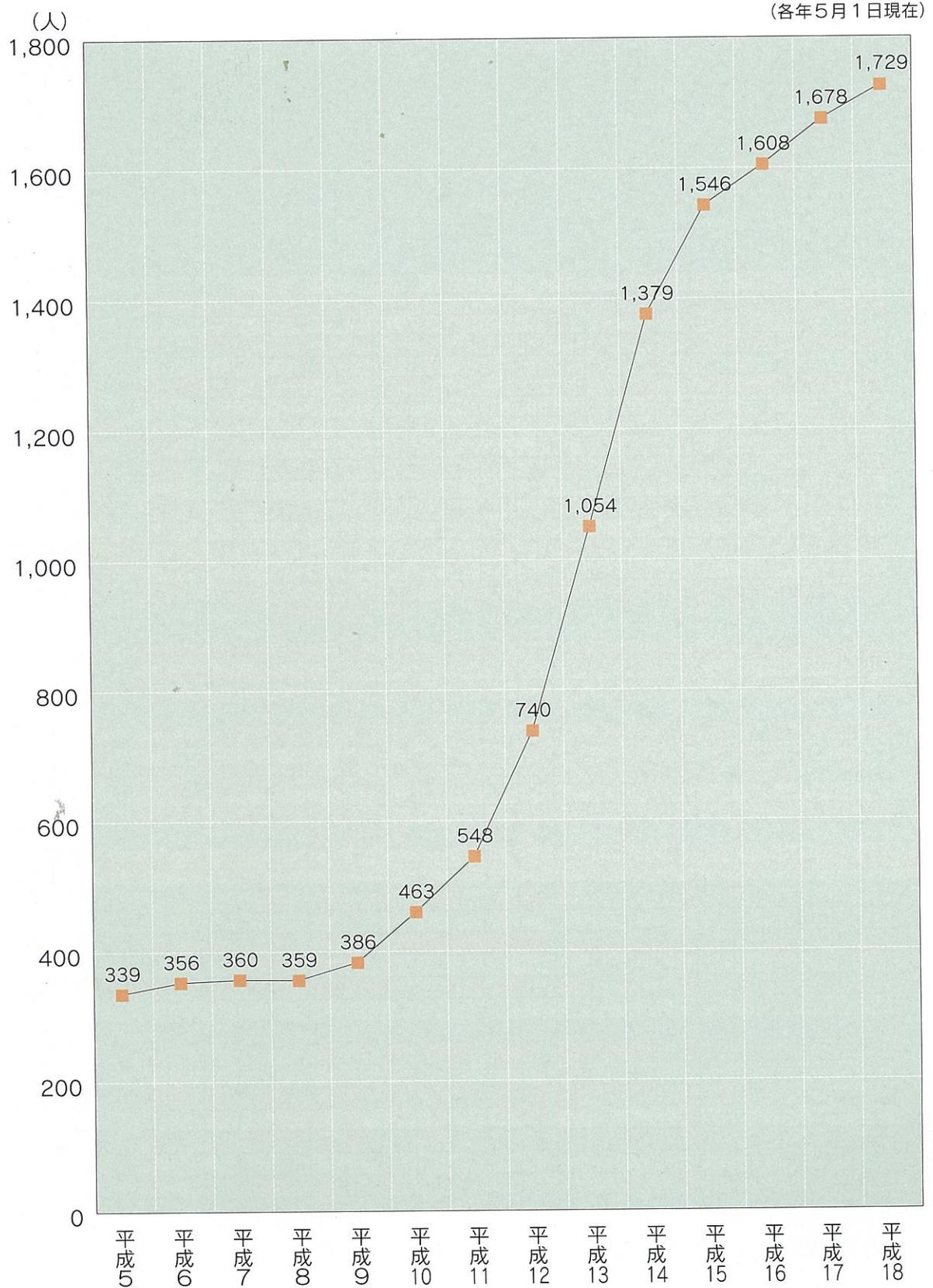
国際交流団体等 19 年度交流事業・支援事業（案）

団体名	事業名	実施時期	事業内容等
財団法人群馬県国際交流協会 (平成 19 年 4 月 1 日から「財団法人群馬県観光国際協会」と変更予定)	外国人相談事業（巡回法律健康相談、予約制法律相談）	巡回（年3回） 予約制（年2回）	県民や在住外国人からの相談に対し、英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語の4カ国語で、弁護士や行政書士などの専門家による相談会を開催。
	リサイクル自転車支給事業	募集：2007年4月上旬 支給：4月下旬	外国人留学生の生活支援と放置自転車の有効利用を目的として実施。
	在住外国人日本語学習支援	2007年6月頃	在住外国人の日本語学習支援を行うボランティアを養成するための講座を開講。
	国際交流まつり	2007年10月下旬	群馬県民と在住外国人、外国人留学生との交流を通じ相互理解を図るため、NGO・NPO団体等や国際交流ボランティアと協働しながら毎年開催。
	青年招へい事業・分野別地方プログラム（JICA委託事業）	2007年10月下旬	将来の国造りを担う青年を我が国へ招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ等を通じ相互交流を深め、真の友情と信頼を培うことを目的として実施。
	国際交流ボランティア研修会（観光通訳ボランティア養成セミナー＋体験ツアー）	年1回（言語：英語・中国語）	県内在住外国人との交流や観光促進を目的に、プロの通訳ガイドから観光通訳の基礎知識を学ぶとともに、実際に在住外国人が参加する県内観光ツアーにおいて実践的な通訳を体験。
前橋市国際交流協会	日本語教室（夜）	一期12回・年3期	日本語学習支援ボランティアによるグループレッスン。
	日本語少人数レッスン（午前）	一期10回・年3期	日本語学習支援ボランティアによる個人レッスン。
	日本語ひろば	毎月第2、第4金曜日	市民と外国人によるフリートーク。
	留学生協力家庭の提供	2007年4月、10月頃	宿泊は伴わないが前橋在住の留学生と月1回程度の交流を行う。
	エスニック料理教室（日本料理を含む）	年5～6回	在住外国人を講師に市民が異国料理に挑戦。
	国際交流パーティ	2007年12月中旬	外国人と一般市民及び会員との交流。
	外国人による日本語発表会	2007年11月中旬	前橋市を中心とした外国人の日本語によるスピーチと交流会。
	国際理解講座（日本文化体験講座を含む）	年4～5回	それぞれの国の文化紹介と交流。
伊勢崎市国際交流協会	姉妹都市提携20周年記念市民訪問団受入	2007年11月	前年度姉妹都市提携20周年記念市民訪問団を受け入れた。その答礼として市民訪問団を派遣する。
	姉妹友好都市学生派遣	2007年8月	姉妹都市米国スプリングフィールド市へ中学生を派遣し、国際感覚の育成を図る。
	友好都市中国馬鞍山市より、中学生訪問団が本市を訪問し、日本文化に触れ、友好を図る。	2007年5月	友好都市中国馬鞍山市より、中学生訪問団が本市を訪問し、日本文化に触れ、友好を図る。
	いせさきまつり参加使節団受入	2007年8月	いせさきまつり参加のため姉妹都市スプリングフィールド市より参加使節団が訪問する。また、ホームステイを通して市民レベルでの交流を図る。
	日本秋まつり参加使節団派遣	2007年9月	姉妹都市スプリングフィールド市で行われる日本秋まつりに参加使節団を派遣し、日本文化を紹介する。また、ホームステイ体験をすることで市民レベルでの交流を図る。
	友好訪問団受入	年2～3回	友好都市中国馬鞍山市より訪問団が本市を訪問し、友好を図る。
	国際詩吟節参加使節団支援	2007年10月	友好都市中国馬鞍山市で行われる国際詩吟節に参加する使節団を支援する。
	国際児童絵画展	2007年11月	市内の外国籍児童・生徒及び姉妹友好都市の子供達の絵画を展示。
	国際理解バスツアー	2008年2月	会員を対象にバスツアーを開催。外国文化や国際交流の歴史などについて視察研修する。
	国際交流のつどい	2007年10月28日（日）	市民と外国籍市民の共生及び国際理解を図る。各国の文化・生活習慣などの紹介と交流。
	多文化共生物産展	未定	外国籍市民のふるさとの国々の物産を紹介する。
	国際映画祭 in ISESAKI	2008年1月	会員を対象とした、外国映画の上映会。
	日本語教室	年3期、1期10回	外国籍市民無向けの日本語教室。
	日本語ボランティア養成講座	未定	日本語教室のボランティアを養成する。

高崎市国際交流協会	第17回国際交流の集い	2007年9月～10月頃	海外の料理やステージを楽しむ屋外イベント。コンセプトは「みんな誰でも参加でき、楽しく交流できる場。」
	ニューイヤー・パーティー2008	2008年1月中旬頃	市内ホテルを会場に、ライブバンドを招いてのダンスタイムや誰でも参加できるゲーム、ビールなどの飲み物をたくさん用意。
	国際交流バスツアー	年2回実施予定	在住外国人との交流を目的としたバスツアー。(平成18年度は、『市内温泉とりんご狩り・BBQ』と『春の東京』の2ツアーを実施した。)
	外国人のための日本語教室	春、秋、冬3期実施(各10回)	受講者のレベルに合わせた日本語のグループレッスン。市内公民館を会場に開催。
	海外料理教室	毎月開催	海外出身者を講師に迎え、各国の料理を紹介する。(全11回を予定) 講師希望者も随時受付中。
桐生市国際交流協会	イタリア・ピエラ市の高校生受け入れ	2007年夏	国際姉妹都市イタリア共和国ピエラ市の高校生を受け入れる(ホームステイ)。
	イタリア・ピエラ市の合唱団受け入れ	2007年7月24日(火)～7月26日(木)	国際姉妹都市イタリア共和国ピエラ市から市民合唱団を受け入れる。
	アメリカ・コロンバス市の桐生市高校生派遣	2008年春	国際姉妹都市アメリカ合衆国ジョージア州コロンバス市に桐生市高校生を派遣する(ホームステイ)。
	日本語大冒険	一期10回・年3期	外国人を対象とした日本語教室。
	中学生英会話研修	2007年12月23日(日)～12月25日(火)	英語研修施設「British Hills」(福島県)に宿泊し、英語漬けの環境の中、英会話能力の向上と異文化理解を深める。
	外国料理教室	未定	在住外国人を講師に外国の家庭料理を学ぶとともに異文化理解を深める。
館林市国際交流協会	国際交流まつり	2007年10月28日(日)	在住外国人と地域の人々、会員による「食と文化交流」のイベント。毎回一万人以上の人出で賑わう。
	日本語教室	毎週火/木曜日 午前 毎週月曜日 夜	外国人及び帰国子女等を対象とした日本語教室を実施。
	外国人相談	通年 毎週火曜日 12～15時	中国語・スペイン語・ポルトガル語・ハンガール語・英語による外国人相談を市庁舎で実施。
	外国語講座	未定 市広報等で募集	中国語・ハンガール語・英語等を開講予定。
	世界料理講座	未定 市広報等で募集	在住外国人を講師に迎え、各国の料理作りを通して交流を図る。
	日本語発表会	未定 市広報等で募集	在住外国人等を対象に日頃、思うことなどを日本語で発表。表彰後、懇親会を行い、交流を図る。
	太田市国際交流協会	国際交流広場	2007年10月下旬
国際ふれあいパーティー		2007年12月中旬	各国の舞踏や音楽による外国人と市民との交流パーティーを開催。
外国人日本語スピーチコンテスト		2008年3月頃	市内在住の外国人による日本語弁論大会。
GIFOSS (ギフォス)の会	スタディツアー(第4回)	2007年8月 2008年1月	カンボジアの留学生とともにカンボジアで現地の学校、ストリートチルドレンの視察を1～2週間。
	アジアの子供展(世界のなかま展)	2007年9月～10月頃	アジアの子供の写真、絵、活動の展示とその国の留学生による話。カンボジア、ラオスで学校を建てることも目的に。邑楽郡で開催。
	ギフォスの着物フェスティバル	2007年11月頃	留学生を中心に在住外国人が国の家族に日本での生活ぶりを報告するきっかけになればと、「着物の写真を撮って故郷に送ろうよ」という活動を続けて18年目。群馬会館で。



群馬県内高等教育機関の留学生の推移



群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（在籍種別）

（平成 18 年 10 月 1 日現在）

区 分	予 備 教育生	学部・短大・高専					大学院						合計
		正規生	非正規生			計	正規生		非正規生			計	
			聴講・科目 等履修生	研究生	その他		修士	博士	聴講・科目 等履修生	研究生	その他		
群馬大学	1	92	14	21		127	53	57	2	8		120	248
群馬県立女子大学		6	3			9	1					1	10
高崎経済大学		154			3	157	42	5		6		53	210
前橋工科大学		10				10	2	1				3	13
関東学園大学		55				55	4		4			8	63
共愛学園前橋国際大学		59				59						0	59
上武大学		545				545	27					27	572
高崎商科大学		11				11						0	11
東京福祉大学		2			289	291						0	291
創造学園大学		47				47						0	47
東洋大学板倉キャンパス		178				178	26	6				32	210
育英短期大学		1				1						0	1
群馬松嶺福祉短期大学		2				2						0	2
高崎商科大学短期大学部		1				1						0	1
新島学園短期大学		11				11						0	11
群馬工業高等専門学校		9				9						0	9
合 計	1	1183	17	21	292	1513	155	69	6	14	0	244	1758

群馬県内高等教育機関外国人留学生在籍者数（経費種別）

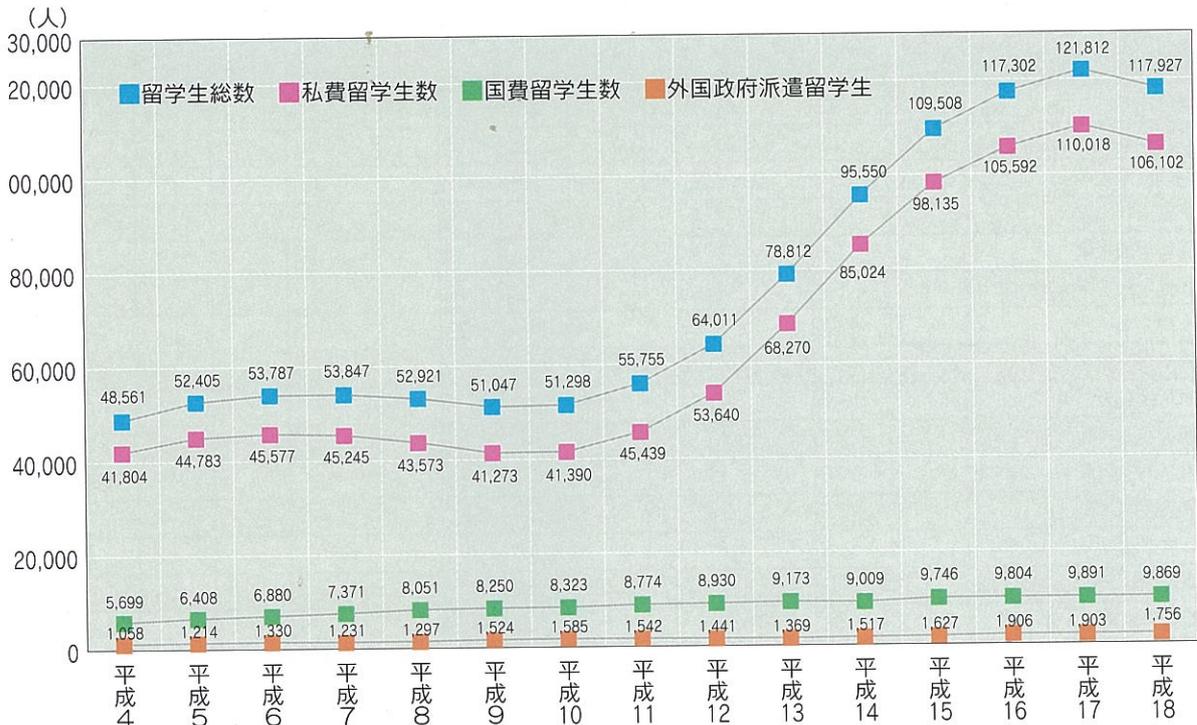
（平成 18 年 10 月 1 日現在）

区 分	国 費 留 学 生	日 韓 共 同 理 工 系 学 部 留 学 生	中 国 政 府 派 遣 留 学 生	マ レ ー シ ア 政 府 派 遣 留 学 生	イ ン ド ネ シ ア 政 府 派 遣 留 学 生	そ の 他 の 政 府 派 遣 留 学 生	県 費 留 学 生	私 費 留 学 生	左 記 以 外 の 留 学 生	計	く 留 学 生 内 数 交 流 協 定 に 基 づ く
群馬大学	35	6		41				166		248	17
群馬県立女子大学								10		10	3
高崎経済大学	3							207		210	3
前橋工科大学								13		13	
関東学園大学								63		63	
共愛学園前橋国際大学								59		59	
上武大学	4							568		572	
高崎商科大学								11		11	
東京福祉大学								291		291	
創造学園大学								47		47	
東洋大学板倉キャンパス	1					1		203	5	210	
育英短期大学								1		1	
群馬松嶺福祉短期大学								2		2	
高崎商科大学短期大学部								1		1	
新島学園短期大学								11		11	
群馬工業高等専門学校	3			6						9	
合 計	46	6	0	47	0	1	0	1653	5	1758	23

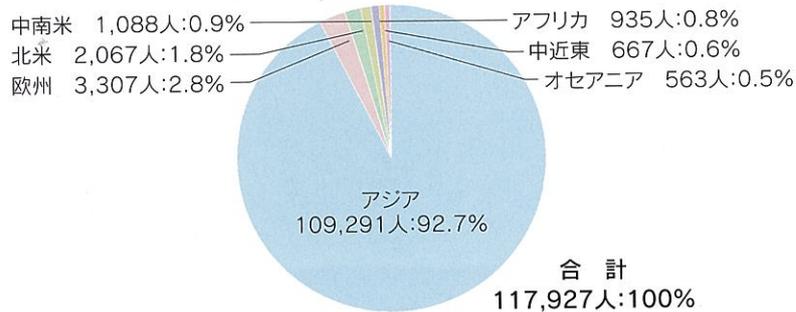


留学生関係基礎資料

1. 全国留学生数の推移 (毎年5月1日現在)



2. 全国出身地域別留学生数 (平成18年5月1日現在)

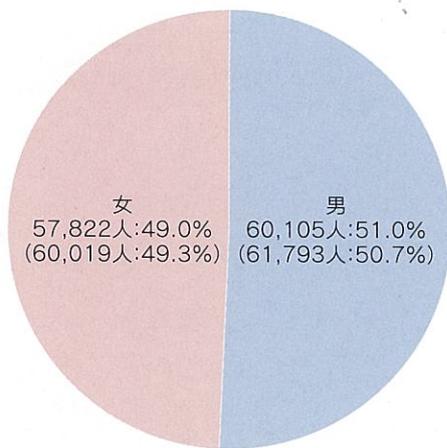


3. 全国出身国(地域)別留学生数 (平成18年5月1日現在、()内は平成17年5月1日現在)

国(地域)名	留学生数	構成比	国(地域)名	留学生数	構成比
中国	74,292人 (80,592)	63.0% (66.2)	ドイツ	393人 (336)	0.3% (0.3)
韓国	15,974人 (15,606)	13.5% (12.8)	オーストラリア	354人 (300)	0.3% (0.2)
台湾	4,211人 (4,134)	3.6% (3.4)	ブラジル	342人 (338)	0.3% (0.3)
マレーシア	2,156人 (2,114)	1.8% (1.7)	ロシア	334人 (346)	0.3% (0.3)
ベトナム	2,119人 (1,745)	1.8% (1.4)	イギリス	333人 (326)	0.3% (0.3)
アメリカ	1,790人 (1,646)	1.5% (1.4)	カナダ	286人 (279)	0.2% (0.2)
タイ	1,734人 (1,734)	1.5% (1.4)	カンボジア	278人 (298)	0.2% (0.2)
インドネシア	1,553人 (1,488)	1.3% (1.2)	ラオス	266人 (266)	0.2% (0.2)
バングラデシュ	1,456人 (1,331)	1.2% (1.1)	エジプト	251人 (219)	0.2% (0.2)
スリランカ	1,143人 (907)	1.0% (0.7)	イラン	236人 (235)	0.2% (0.2)
モンゴル	1,006人 (924)	0.9% (0.8)	トルコ	171人 (164)	0.1% (0.1)
ネパール	998人 (617)	0.8% (0.5)	メキシコ	151人 (137)	0.1% (0.1)
ミャンマー	736人 (651)	0.6% (0.5)	ウズベキスタン	139人 (139)	0.1% (0.1)
フィリピン	542人 (544)	0.5% (0.4)	スウェーデン	137人 (116)	0.1% (0.1)
インド	525人 (410)	0.4% (0.3)	その他	3,604人 (3,490)	3.1% (2.9)
フランス	417人 (380)	0.4% (0.3)	計	117,927人 (121,812)	100.0% (100.0)

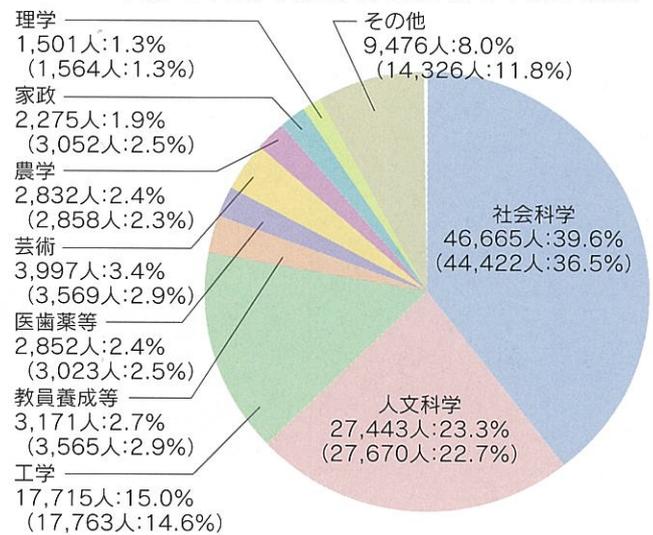
4. 全国男女別留学生数

(平成 18 年 5 月 1 日現在、() 内は平成 17 年 5 月 1 日現在)



5. 全国専攻分野別留学生数

(平成 18 年 5 月 1 日現在、() 内は平成 17 年 5 月 1 日現在)

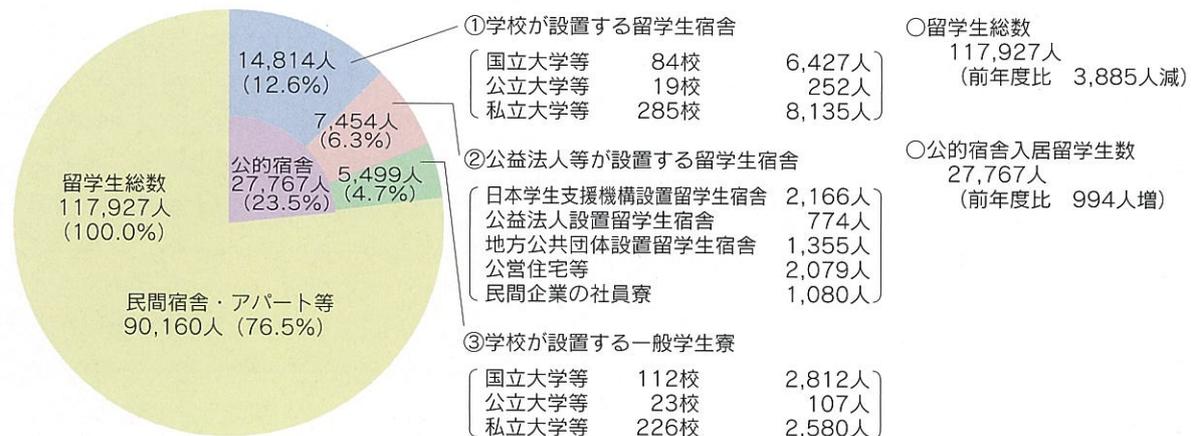


○留学生総数 117,927 人 (117,302 人)

6. 全国国公立別・在学段階別留学生数 (平成 18 年 5 月 1 日現在、() 内は 17 年 5 月 1 日現在)

	国立		公立		私立		合計	
	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比	留学生数	構成比
学部	9,668人 (9,574)	16.0% (15.7)	1,335人 (1,384)	2.2% (2.3)	49,417人 (50,194)	81.8% (82.1)	60,420人 (61,152)	100.0% (100.0)
大学院	19,264人 (19,333)	62.3% (63.9)	1,347人 (1,312)	4.4% (4.3)	10,299人 (9,633)	33.3% (31.8)	30,910人 (30,278)	100.0% (100.0)
短期大学	11人 (10)	0.4% (0.3)	13人 (26)	0.5% (0.8)	2,450人 (3,055)	99.0% (98.8)	2,474人 (3,091)	100.0% (100.0)
高等専門学校	458人 (450)	84.3% (84.7)	1人 (0)	0.2% (0.0)	84人 (81)	15.5% (15.3)	543人 (531)	100.0% (100.0)
専修学校	0人 (0)	0.0% (0.0)	9人 (26)	0.04% (0.1)	21,553人 (25,171)	99.96% (99.9)	21,562人 (25,197)	100.0% (100.0)
準備教育機関	0人 (0)	0.0% (0.0)	0人 (0)	0.0% (0.0)	2,018人 (1,563)	100.0% (100.0)	2,018人 (1,563)	100.0% (100.0)
合計	29,401人 (29,367)	24.9% (24.1)	2,705人 (2,748)	2.3% (2.3)	85,821人 (89,697)	72.8% (73.6)	117,927人 (121,812)	100.0% (100.0)

7. 留学生の宿舎の状況 (平成 18 年 5 月 1 日現在)



8. 地方別・都道府県別留学生数 (平成 18 年 5 月 1 日現在、() 内は 17 年 5 月 1 日現在)

地方名	留学生数・構成比	都道府県	留学生数	地方名	留学生数・構成比	都道府県	留学生数		
北海道	1,800 人 : 1.5% (1,903 人 : 1.6%)	北海道	1,800 (1,903)	近畿	20,832 人 : 17.7% (21,611 人 : 17.7%)	三重	792 (842)		
						滋賀	379 (366)		
京都	4,732 (4,890)								
大阪	9,986 (10,496)								
兵庫	3,721 (3,967)								
奈良	971 (869)								
和歌山	251 (181)								
東北	3,287 人 : 2.8% (3,382 人 : 2.8%)	青森	358 (401)			中国	4,681 人 : 4.0% (4,881 人 : 4.0%)	鳥取	210 (211)
		岩手	373 (330)					島根	183 (171)
		宮城	1,935 (2,018)					岡山	1,588 (1,663)
		秋田	161 (136)	広島	1,950 (2,001)				
		山形	206 (208)	山口	750 (835)				
		福島	254 (289)	四国	1,326 人 : 1.1% (1,439 人 : 1.2%)			徳島	312 (345)
関東	59,864 人 : 50.8% (62,263 人 : 51.1%)	茨城	2,636 (2,828)					香川	389 (339)
		栃木	1,307 (1,506)					愛媛	437 (542)
		群馬	1,532 (1,421)					高知	188 (213)
		埼玉	5,377 (5,932)					九州	12,298 人 : 10.4% (12,096 人 : 9.9%)
		千葉	5,599 (5,832)			佐賀	364 (316)		
		東京	39,520 (40,396)	長崎	1,236 (1,238)				
		神奈川	3,893 (4,348)	熊本	665 (627)				
中部	13,839 人 : 11.7% (14,237 人 : 11.7%)	新潟	1,374 (1,452)	大分	3,060 (2,867)				
		富山	503 (513)	宮崎	155 (218)				
		石川	1,296 (1,271)	鹿児島	484 (549)				
		福井	290 (277)	沖縄	514 (550)				
		山梨	686 (695)	計	117,927 人 : 100.0% (121,812 人 : 100.0%)				
		長野	769 (823)						
		岐阜	1,534 (1,609)						
		静岡	1,482 (1,583)						
		愛知	5,905 (6,014)	愛知	5,905 (6,014)				



平成 18 年度事業報告

1. 留学生関連の情報交換に関すること
 - (1) 会誌「AKAGI」の発行（予定）
 - ・発行日 平成 19 年 3 月（第 17 号）
 - ・発行部数 1,500 部
2. 留学生と地域社会との交流の促進に関すること
 - (1) 各種交流行事への参加（主なもの）
 - ① 国際交流まつり（財団法人群馬県国際交流協会主催）
平成 18 年 10 月 22 日（日） 県民広場
 - ② 前橋市立荒子小学校講演会「感じようアジアの風」（NPO法人アジア交流協会主催）
平成 18 年 11 月 8 日（水） 前橋市立荒子小学校
 - ③ 着物フェスティバル（GIFOSSの会主催）
平成 18 年 12 月 3 日（日） 群馬会館
3. その他
 - (1) 運営委員会の開催
 - ・平成 18 年 7 月 26 日（水） 群馬大学荒牧キャンパス
 - (2) 外国人留学生との交流会、スピーチコンテストの開催
 - ・平成 18 年 10 月 29 日（日） 共愛学園前橋国際大学
 - (3) 定例総会の開催
 - ・平成 18 年 12 月 11 日（月） 群馬大学荒牧キャンパス

平成 19 年度事業計画（案）

1. 留学生関連の情報交換に関すること
会誌「AKAGI」の発行
2. 留学生の地域交流・教育交流の促進に関すること
関係団体等が実施する事業への後援・協力
 - (1) 地域フェスティバル、県内各種国際交流行事（「国際交流まつり」等）、見学会等の参加・後援
 - (2) 小中学校・各種団体主催「国際理解講座」等への留学生講師派遣
 - (3) 地域フォーラム、セミナー、シンポジウム、スピーチコンテスト等への開催協力
3. 留学生の生活環境の整備に関すること
長期・短期ホストファミリー、協力家庭等との連携
地域の各種団体等との連携・広報の実施
4. その他
 - (1) 運営委員会の開催
 - (2) 外国人留学生との交流会 高崎経済大学主催
 - (3) 定例総会の開催

◎ 群馬県留学生交流推進協議会要項 ◎

(名 称)

第1 本会は、群馬県留学生交流推進協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目 的)

第2 協議会は、群馬県における留学生の円滑な受入れの促進及び留学生と地域住民との交流活動を推進することを目的とする。

(定 義)

第3 この要項において留学生とは、教育・研究指導を受ける目的で入国し、群馬県内の高等教育機関に在学する外国人をいう。

(協議事項)

第4 協議会は、第2に規定する目的を達成するため、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 留学生と地域社会との交流の促進に関すること。
- (2) 留学生の学習条件の整備に関すること。
- (3) 留学生の生活条件の整備に関すること。
- (4) その他協議会の目的達成に必要な事項に関すること。

(組 織)

第5 協議会は、群馬県における留学生の受入れに係る関係機関等の長又は代表者を会員として組織する。

(役 員)

第6 協議会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1人
- (2) 副会長 2人

2 会長は、群馬大学長をもって充て、副会長は、総会の議を経て会長が委嘱する。

(役員職務)

第7 会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が定める順位に従って会長の職務を代行する。

(顧 問)

第8 協議会に、目的達成に必要な助言及び協力を求めるため、顧問を置くことができる。

2 顧問は、会長が委嘱する。

(総 会)

第9 協議会は、年1回定例総会を開催するほか、必要に応じて臨時に開くことができる。

2 会長は、総会を召集し、その議長となる。

(運営委員会)

第10 協議会の円滑な運営を図るため、群馬県留学生交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(事 務)

第11 協議会の事務は、群馬大学研究推進部国際交流課において処理する。

(雑 則)

第12 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成2年12月12日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

◎ 群馬県留学生交流推進協議会運営委員会要項 ◎

(趣 旨)

第1 この要項は、群馬県留学生交流推進協議会要項（以下「協議会要項」という。）第10の第2項の規定に基づき、群馬県留学生交流推進協議会運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 運営委員会は、協議会要項第4に規定する事項の具体的事項について審議する。

(組 織)

第3 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、群馬県留学生交流推進協議会会長が委嘱する。

(1) 協議会要項第5に規定する機関等から選出された者 若干人

(2) 群馬大学副学長

(3) その他の運営委員会が必要と認めた者 若干人

2 前項第1号及び第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委 員 長)

第4 運営委員会に委員長を置き、群馬大学副学長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員長以外の者の出席)

第5 委員長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事 務)

第6 運営委員会の事務は群馬大学研究推進部国際交流課において処理する。

(雑 則)

第7 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成2年12月12日から施行する。

2 この要項施行後、最初に委嘱される第3の第1項第1号及び第3号の委員の任期は、第3の第2項の規定にかかわらず、平成4年3月31日までとする。

附 則

この要項は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。



編集発行 群馬県留学生交流推進協議会事務局
〒371-8510 前橋市荒牧町4丁目2番地
群馬大学研究推進部国際交流課内
TEL.027-220-7626
FAX.027-220-7630
発行日 2007年3月

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています